［長生村］　一松（ひとつまつ）小域福祉圏地域ぐるみ福祉ネットワーク事業推進委員会



小学校との連携で地域福祉を推進！

「一松小ふれあい祭り」のバザー

千葉県で唯一の村である長生村は、八積、高根、一松の３地区からなり、それぞれの地区において「小域福祉圏地域ぐるみ福祉ネットワーク事業推進委員会（以下、小域ネットワーク）」が地域福祉推進の担い手として活躍しています。３地区の中で最も高齢化が進んでいる一松地区では、一松小域ネットワークが小学校と連携し、高齢者と子どもたちがふれあえる場の提供を行っています。

一人暮らしの高齢者に子どもたちとのふれあいを

約20年もの間、地域に根ざした福祉活動を続けている一松小域ネットワークの、現在の主な事業が「福祉交流会」と「友愛訪問」です。

「福祉交流会」は年2回開催され、その一つが、毎春、長生村立一松小学校で開催する運動会に、一人暮らしの高齢者を招待するというもの。それも、ただ見学するだけでなく、一緒に玉入れを楽しんだり昼食を食べるなど、子どもたちと直接ふれあえる機会を提供し、楽しい時間を過ごせるよう、様々な工夫をしています。



左から一松小学校の宮﨑浩章校長、鈴木俊一教頭、一松小域ネットワークの中村隆男会長

もう一つが、やはり一人暮らしの高齢者を、一松小学校で開催する「一松小ふれあい祭り」のバザーに招待することです。招かれた高齢者が感謝の気持ちとして、バザーで販売する商品を提供してくれることも多いそうです。

一松小域ネットワークはこのバザーで、会場となる体育館の一画にブースを設け、１袋50円という安価でわたあめを販売。その売上金は全額PTAに寄付しています。

「運動会もバザーも、参加した高齢者の方々から、楽しかった、若返ったという声が多く聞かれます。また、子どもたちだけでなくPTA役員の方々や、保護者とのふれあいも楽しんでいるようですね」と、一松小域ネットワークの会長であり、長生村民生委員児童委員協議会の会長も務める中村隆男さん。



「一松小ふれあい祭り」のバザー

高齢者から「待ち遠しい！」との声子どもと高齢者をつなぐ「友愛訪問」

「友愛訪問」は、一人暮らしの高齢者の自宅を、一松小学校の３年生が訪ね、手紙と手作りのプレゼントを直接手渡します。

手紙には「いつまでも元気でいてください」「長生きしてください」など、高齢者を敬い気遣う、子どもたちの思いがしたためられています。プレゼントは子どもたちが手作りした人形や栞など。それに加えここ数年は、長生村社協の支援により、イチゴの苗を一緒に届けています。



友愛訪問

子どもたちが高齢者の自宅を巡る際には、必ず民生児童委員が付き添い、この子は誰の子ども、または孫なのか、どの辺りに住んでいるかなど、丁寧に説明することで、互いの絆をより強めると同時に、見守り活動にも役立てています。

この「友愛訪問」を楽しみにしている高齢者は数多く、中には涙を流して喜んだり、手紙の返事をくれることもあるそうです。

子どもたちの教育にも役立つと一松小学校が全面的に協力！

『心豊かで思いやりのある子』。

この言葉を、教育目標の一つに掲げている一松小学校。

「子どもたちにとって勉強は大事です。そして同じくらい大事なのが、心を育てることなのです」と、話してくれた一松小学校の宮﨑浩章校長は、一松小域ネットワークの副会長も務めています。

さらに「高齢者の方々は、ただ子どもたちとふれあうだけでも喜び、そして感謝の気持ちを表してくれます。子どもたちはそれを敏感に感じ取り、そこから敬老精神や、人を思いやる心などが芽生えます。つまり、一松小域ネットワークの事業に参加することは、子どもたちの心を育てるのに大いに役立っているのです」と。

その宮﨑校長の右腕となり、一松小域ネットワークとの窓口として、実務的な部分を担当している鈴木俊一教頭も、「全国的にそうであるように、この地域も核家族が多いため、普段接しない年代の人々とのふれあいは、子どもたちの世界をさらに広げてくれています」と言います。

今後は地域と学校がより深くつながることがますます重要になると考えており、一松小域ネットワークがその役割を果たしてくれることを、大いに期待しているそうです。

存在と役割をさらに広くPR地域に住む人々の架け橋に

「高齢者が住みやすい町をつくりたい」という思いで活動を行っているなかで、地域に住む人々にとって一松小域ネットワークがより身近な存在となれるよう、ＰＲに努めていきたいと中村会長は言います。

また、今後の具体的な活動の一つとして、可能であれば高齢者を中心とした登下校の見守り活動を事業に加えたいとのこと。「長生村社協は村全体の高齢者福祉を担う。我々は地区の隅々まで目を配り、子どもたちと高齢者がふれあえる機会を提供する。それが、それぞれの役割だと考えています。したがって、見守り活動はぜひ実現させたいですね」。



運動会

一松小域ネットワークの力で、この地区に暮らす人々の絆が、今後さらに強まることを期待します。



一松小域ネットワーク会議

長生村社会福祉協議会　TEL 0475-32-3391

元気に楽しく！高齢者の「憩いの場」を



長生村社協のみなさん

長生村社協では、介護保険制度における介護予防・日常生活支援総合事業（以下：総合事業）のサービスとして、介護予防の取り組みが必要とされる要支援の方や要介護認定非該当でサービス事業対象となった方に対して「高齢者ふれあい事業」を行っています。

以前は村社協の独自事業として行っていましたが、介護保険制度の改正に伴い、平成28 年度から村の委託事業として展開しています。

明るく楽しい「憩いの場」となることを目標として、参加者同士が一緒に笑ったり歌ったり、運動できる場を提供しています。健康運動指導士による「脳トレ」や歌を盛り込んだ体操や、クリスマス会等の季節行事、ボランティアグループによる慰問演奏など、参加者が「楽しい、また行きたい」と思えるような内容となるように工夫しているとのこと。

長生村社協の髙仲松枝さんは「参加者には一人暮らしの高齢者も多いため、地域住民とのふれあいやつながりを感じてもらい、『元気に楽しく生きていこう』と思ってもらえるような場にしたいと考えています」と話します。

参加者からは「週に一度の楽しみであり、元気なうちは続けて通いたい」「この事業を長く続けてほしい」といった声もたくさん聞かれ、実際に活動している会場からはとても賑やかな笑い声が絶えないそうです。

今後、送迎ボランティアや若い世代の担い手を増やすことが課題とのことですが、こうした「憩いの場」の提供が長生村の高齢者に元気を与えています。

※長生村人口：14,681人　65歳以上人口：4,582人　高齢化率：31.2%（平成28年4月現在）

【平成28年11月取材】